

2018年7月2日

朝礼の話 (2018年7月)

皆さんお早うございます。気象庁は先月29日、関東甲信地方の梅雨明けを発表しました。平年より22日も早く、6月の梅雨明けは、記録がある1951年以降で初めての事です。太平洋高気圧が勢力を拡大し、関東甲信を覆い、梅雨前線を北へ押し上げた結果、関東地方の一部では最高気温が37℃を超える猛暑日となりました。一方、西日本は、梅雨前線の活動が活発で、九州北部を中心に激しい雨となり、九州各地で豪雨による土砂災害警戒情報が出されました。滋賀県の米原市で竜巻とみられる突風が発生し、住宅など85棟で被害が出ています。近畿地方は梅雨の鬱陶しい空模様がまだしばらく続きそうです。体調管理に気をつけて梅雨の季節を元気に乗り切っていきましょう。

サッカーの第21回ワールドカップ(W杯)ロシア大会は先月14日、モスクワのルジニキ競技場で、1次リーグA組の開催国ロシアとサウジアラビアの試合で開幕しました。大会は32チームが各組4チーム8組に分れ、1次リーグ戦を行い、28日(日本時間29日)、G、H組の1次リーグ最終戦で、各組上位2チーム、計16チームの決勝トーナメントへの進出が決まりました。日本は、コロンビア、セネガル、ポーランドとH組で1次リーグを戦い、1勝、1分け、1敗、勝ち点4となり、累積警告ポイントの差でセネガルを上回り、2大会ぶり3度目の決勝トーナメント進出を果たしました。日本は、昨年8月末、埼玉スタジアムで行われたアジア最終予選B組のオーストラリア戦に2-0で勝利し、6大会連続6度目のW杯予選突破を果たしていました。4年前のブラジル大会を率いたザッケローニ監督がパス廻しとボール支配を重視したのに対し、ハリルホジッチ前監督はカウンターと敵陣でのボール奪取に拘り、選手に世界水準のスピードと強さを求め、自分の理想を選手に強く求めるスタイルをとりました。日本人スタッフの進言にはほとんど聞く耳を持たず、選手との意思疎通、信頼の維持にサッカー協会内で疑念が生じ、4月に突然の監督交代となりました。就任3ヶ月足らずの緊急登板となった西野監督は、選手ありきで適材適所を迫り、選手個々の力を引き出すことで組織全体を立て直しました。選手やスタッフの意見をよく聞きながら最後は監督が決めるというスタイルを貫きました。大会前最後の強化試合となったパラグアイ戦で起用した香川、乾が大活躍し、4得点の快勝をもたらすと、初戦のコロンビア戦は、香川、乾の組合せを軸に大迫、柴崎、昌子など最も調子のよい選手を先発させることで劣勢が予想されていたコロンビア戦を2-1で勝利しました。初戦のよい流れを切らないようセネガル戦は初戦と同一メンバーを先発とし、1-1の引き分けとしました。第三戦は先発メンバーを6名替える思い切った布陣をとりました。西野監督のずぶとさ、したたかさが出た選手起用と思われます。ポーランド戦で終了間際、無理に攻めなかった試合運びも切羽詰まった状況で思い切った賭けに出た西野監督の冷静、沈着な判断が功を奏したといえます。7月3日早朝3時から始まるベルギー戦で日本代表がどんな戦いをしてくれるか大いに楽しみです。勝利を祈っています。みんなで応援しましょう。 以上